【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名　奥原剛

本論文は、統計データおよび病の体験談を用いた子宮頸がん予防ワクチンに関するメッセージが、娘を持つ母のワクチン接種への態度およびワクチン接種の意図に与える影響力を検討したものである。病の体験談の影響力については、体験談の語り手に対する受け手の同一化に着目し、語り手の違いが娘を持つ母のワクチン接種への態度およびワクチン接種の意図に与える影響を検討した。

研究参加者を、子宮頸がん予防ワクチンに関する統計データのみを使った介入メッセージを読む群、統計データ＋子宮頸がん経験者自身の体験談を併用した介入メッセージを読む群、統計データ＋母の体験談を併用した介入メッセージを読む群、介入メッセージを読まない対照群に無作為に割り付け、インターネット調査による無作為化比較試験を実施した。

その結果、介入メッセージを読んだ 3 つの介入群では、対照群よりも、意図および態度とも有意に高かった。また、統計データに体験談を加えたメッセージを読んだ群では、統計データのみのメッセージを読んだ群より、有意に意図が高かった。一方で、統計データ＋子宮頸がん経験者自身の体験談のメッセージ群と、統計データ＋母の体験談のメッセージ群の間では、意図および態度ともに有意な差は認められなかった。

以上の結果から、本論文は、統計データのみにせよ、統計データと体験談を併用したものにせよ、子宮頸がん予防ワクチンの安全性や有効性に関するメッセージへの接触が、娘を持つ母のワクチン接種への態度および接種意図を高める可能性を示した。加えて、本論文は、子宮頸がんワクチン接種勧奨メッセージを作成する際、統計データに体験談を加えることによってメッセージの説得力が向上し、娘を持つ母の子宮頸がん予防ワクチンの接種意図が高まる可能性を示した。本論文は、統計データおよび体験談を用いたメッセージの影響力の研究および子宮頸がんワクチン予防接種にかかわるコミュニケーションの研究と実践に新たな知見と重要な示唆を提供すると考えられ、学位所授与に値するものと考えられる。